

2014. 年末号 広報～風・菜・樹 ふなき便り

社会福祉法人 扶老会 障害福祉サービス事業部

一年の締め括り、忘年会開催!

今年も残りあとわずかとなりました。当法人障害福祉サービス事業部の各事業所の利用者の皆さんは、各々の目標に向けてさまざまな活動をされてきました。その労をねぎらう為、恒例の忘年会を開催しました!

ハイツ ヴィラ

ハイツふなき・ヴィラふなきは合同で開催しました。場所は山陽小野田市にある「帆万里」。海の景色を眺めながら食事をし、カラオケ・プレゼント抽選会・余興などを行い、利用者の皆さんと職員が一緒になって楽しみました。たくさん笑いながら、今年一年を振り返り、お話も盛り上がりました。来年も一人ひとり新たな目標を持ち、楽しく、そして元気に過ごしていきたいと思えます。



● 利用者代表挨拶。皆の前で緊張されておりましたが、自分の思いを織り交ぜながら丁寧に挨拶されました。



● 席順はクジで決め、交流を図りました。美味しい料理に舌鼓を打ちながら、1年の労をねぎらいながら和やかに過ごしました。



● 余興の様子です。ジェスチャーゲームや、利用者有志と職員で練習したダンスを披露し、会場は大盛り上がり!



センター

12月12日(金)、生活支援センターふなきの日中一時支援の忘年会ではホテルでのランチバイキングへ行って来ました。さすがホテルのバイキングだけあって、料理やデザートの種類も豊富で美味しい! 参加された利用者の皆さんもお腹いっぱい美味しい食事を満喫されました。今年の労を皆でねぎらい、また来年も健康で穏やかにセンターの日中一時支援を利用して頂く事を願っています。



● 美味しいので食べすぎてしまいました。この日くらいはOK!?



● デザートもこんなに充実。年忘れに贅沢な思い出ができました。



● 牧次長から締めの挨拶。来年も一緒にいろんな行事を楽しみましょう!

1年を振り返って～

障害福祉サービス事業部 各事業所の主任が1年間の活動の振り返りを行ないました。

ハイツふなき

宿泊型自立訓練・自立訓練（生活訓練）

2014年は個別支援の強化を図る為、個別の訓練スケジュールを立てる等、より個々のニーズに対応した支援が展開出来るよう試行錯誤しながら日々取り組んできました。個々の動きが具体的になった事で、利用者、職員の活動に対する意識が変わってきたと感じています。

今年も多くの方が卒業していきました。単身生活等自身が希望する生活に向けて新しいスタートを切った方がいらっしゃる一方で、ご本人の思いと支援内容がマッチせず、利用に結びつかなかった方や途中で利用解除となった方もいらっしゃいました。改めて、生活訓練の意義について考えさせられる機会でもありました。

来年はこれまでの枠に捉われず、サービスの質を高め、出来るだけ多くの方にハイツふなきを利用して頂けるよう頑張ります。

ハイツふなき宿泊型・生活訓練主任 石川 幸一



● 生活訓練のプログラム。日中活動ではSST（Social Skill Training）を行い、社会生活で役立つためのスキルを学習されている様子と、個別支援で金銭管理の練習をされている様子です。

就労継続支援B型

ハイツ就労継続支援B型事業は、充実した一年でした。地域活動作業においては、個人の方や一般企業など様々な方面から仕事を頂き、感謝しています。その中でも宇部市障害者就労支援ネットワーク会議の活動の一環として共同受注システムがあり、他事業所の皆様と連携することによって大きな実績や、利用者間の交流も図ることができました。今月も宇部市営墓地の清掃作業を協力して行っています。

軽作業においても、細かな部品の組み立て作業を地道に行ってきた成果もあり、様々な企業から仕事を頂くことができました。新たな仕事の依頼の話もあり、挑戦していきたいと考えております。

草刈・剪定の作業依頼は随時承っております。ご利用の方はハイツふなきまでご連絡下さい。

ハイツふなき就労継続B型主任 藤永 道雄



● 作業の様子。宇部市より請け負った公営墓地の草刈の様子や、企業からの下請け作業として自転車部品の組み立てをされている様子です。多忙ではありましたが、そのおかげで作業能力や工賃の向上にもつながりました。

ヴィラふなき

午年のヴィラふなきは職員体制が若干変更となりましたが、比較的穏やかな1年を過ごせたのではないかと思います。特に印象に残っているのは、旅行等の余暇支援を利用者さんの状況に合わせ、同時に複数の選択肢を企画し、参加しやすいよう取り組んだ事です。その為には普段から利用者さんの話に耳を傾け、どのようなニーズがあるのかに注力してきた1年でもありました。

また、今年度からこれまでのグループホーム・ケアホーム一体型事業から介護サービス包括型グループホームへと転換し、より利用者さんの生活に密着した支援が重要となってきていますが、利用者の高年齢化という壁が大きくなりつつあるのを強く感じています。障害福祉サービスだけでなく、介護保険サービスを併用される方もいらっしゃいます。

今後もより良い支援の為に、制度の枠を超えた学びを深めていけるよう努めてまいります。

ヴィラふなき主任 木村 守孝



● 休日余暇支援の一部。有名な角島大橋をバックに記念撮影したり、美祢にある報恩寺様に伺い、落語を楽しませていただきました。利用者さんの生活がより充実するよう今後もアイデアを出していきます。

生活支援センターふなき

今年の大きな変化は、生活支援センターの様態替えです。屋外はデッキの撤去、室内はホールの椅子やテーブルを一新し、掲示板も中央に配置しました。また、相談スペースを1階に移し、受付を作り、事務所を2階に移動しました。これまでの雰囲気を一変し、「使いやすい、過ごしやすい」を意識し、環境を整えました。おかげさまで、日中一時支援事業ではより多くの利用がありました。

相談支援事業も、地域移行・地域定着支援とともに平成26年度末までに依頼の計画相談に対応出来るように、相談員一同、これまで以上の機動力で総力を挙げて取り組みました。また、宇部市障害者ケア協議会精神部会の活動を通して、関係機関や行政、地域社会とのつながりも継続して築き、「卓球大会」や「コミュニティくらす」など交流の場となる行事も積極的に運営しました。

来年も生活支援センターふなきを利用される方々のサポーターとして、職員一同頑張っていきます。

生活支援センターふなき主任 松本 美子



● 日中一時支援の送迎の様子と、インテリアが一変された生活支援センターで和やかに過ごす利用者さん。



サムラ

サムラは今年もレストラン事業を重点的に取り組んだ1年でした。昨年のこの時期にもおせちについて広報でお知らせした次第ですが、今年も年末の数日間をかけておせちの仕込みや販売を行います。また、年末には利用者の方と一緒に大掃除を行い、1年間頑張った汚れをきれいにしていく予定です。

レストランとしても今年も変わらず忙しい1年間でした。新商品のパンケーキも多い時で1日10食以上販売し、山口県社会就労事業振興センターより注文を受け、「地産地消」という取り組みでお弁当を作成したり、また11月までは宇部商工会議所が主催したワンコイン・パスポートに参加させて頂いたり、新しいことに挑戦した1年でもありました。

サムラ主任 浅谷 友香



● 地産地消にこだわって作った「三宝膳」は県知事にも好評でした。また、ワンコイン・パスポートは、今まで来店されたことのないお客様にも多数来ていただき、サムラを知ってもらう良い機会となりました。

みんなの想ひ出 ～2014年 午～

退院して、入居者の皆さんと仲良く生活する為に、積極的に関わっていき、今では皆さんと楽しく会話できるようになっています。また、体調面でも日中活動に参加することにより、規則正しく生活することができています。(ハイツ・Yさん)



● 他利用者と軽スポーツを楽しむYさん

ハイツ卒業後、9月1日から地域で生活を始めました。病院生活も長かったので、今就労できていることは昔の働いていたときが思い出され、良かったです。地域では何事も自分でしなければいけないという意識がいたと思いました。(センター・Hさん)



● 日中一時支援の行事に参加し、余暇を充実させているHさん

今年は自分達だけで電車やバスを利用して、下関の先帝祭へ行くことができました。また、ヴィラ旅行でも角島へ行ったりと、外へ出ることが多く、明るく楽しく過ごすことができました。(ヴィラ・Iさん)



● 休日に外出をするYさん

1年間を振り返って、いろいろあったけれど、初めて外販に行った時は緊張していたのが今では緊張しなくなりました。一生懸命頑張って、これから良い仕事に就きたいです。(サムラ・Nさん)



● 商品を並べるNさん

平成26年度 全国ナイスハートバザール2014 出店

12月10日(水)～14日(日)、フジグラン宇部にて『平成26年度全国ナイスハートバザール2014』が開催されました。障害のある方々の就労支援を通して障害者の自立と社会参加を目指しており、山口県内をはじめ全国の障害者就労支援事業所等で生産・製造された製品を展示販売する催しもので、サムラも利用者の皆さんと一緒に協力販売させて頂きました。会場には多くの商品が並び、買い物帰りに寄られるお客様もおられ、賑わう様子が見られました。



● フジグランの吹き抜けで開催。多くのお客様に会場だけでした。



● 工房で利用者さんと一緒に作る、サムラ自慢のクッキーです！



● お客様からの注文に受け答えをする男性利用者さん。接客も一生懸命されていました。

今月のエッセイ

鶴見俊輔という哲学者をご存知でしょうか？私は、失礼ながら今年の夏にNHK Eテレで放送された「知の巨人たち」というシリーズ番組で知りました。元々は、司馬遼太郎目当てで見ていたシリーズでしたが、一番インパクトがあり、引きこまれたのが鶴見氏でした。日本の戦後思想史について語られていましたが、彼が発する言葉は哲学的ではあるけれど、分かりやすい。そして真理をついているからスッと胸に入ってくる。でも、ズッシリとした重みがある。「こんな素敵な哲学者が、まだ日本にいるんだなあ」と番組を見て感激しました。

その後、彼の著作を一冊ほど読了しました。岩波新書から出版されている『思い出袋』という本です。その中で、彼は御年92歳ですが、自身のことを「不良少年」と称しています。実際に、名家の生まれでありながら、少年から青年に至るまで、破天荒な経歴を歩んでいます。「私は、自分の内部の不良少年に絶えず水をやって、枯死しないようにしている。」この一文に私はとても惹かれました。清廉潔白、品行方正、純真無垢はもちろん素晴らしいことだけでも、ただそれだけでは世の中の全ては見えない。表があれば、裏もあり、光があれば、影もあるのがこの世の慣わし。世の中を色々な角度から見るためにも、自分の中に存在するダークサイドの自分も完全に消去してはいけないということでしょうか。私の好きなアーティストの一人、長瀬剛氏がいつか話していたのを覚えています。「不良少年と呼ばれる若者はいつも斜に構えて、鋭い目つきで睨んでいる。それは、世の中が曲がっているから。曲がっているものを真っ直ぐに見えるように一生懸命になっていたなら、あんな角度(斜)になっしょう。」少し美化した表現ではあるけど、あながち間違いでもないと思います。折しも、先ごろ昭和の大スター、高倉健さんと菅原文太さんが逝きました。それぞれの代名詞である「任侠」と「アウトロー」を題材とした映画が何故受けたのか？それは、鶴見氏がいう「自分の中の不良少年」に水をやることを日本人が忘れていなかったからなのかも知れませんね。

同著の中で、彼が戦前に友人と日米開戦の是非について議論した際に「日本の国について、その困ったところをはっきり見る。そのことをはっきり書いてゆく。日本の国だからすべて良いという考え方をとらない。しかし、日本と日本人を自分の所属することを続ける。」と話したと書いています。今、世の中は批評家で溢れていますが、彼らが発するほとんどは、自分という軸ではなくて、世論や正論といったものだけに頼った批評でしかありません。戦前、戦中という今とは全く違う思想の時代において、国の全てが正しいとは思わないスタンスを明確に表した彼は異端ですが素敵です。国を想い、日本人としての誇りと覚悟を持った、鋭く、ぶれない、でもしなやかな人間味あふれる知性と感性。国を制度や組織に置き換えて、私も考えてみたいと思います。

(佐伯)

CHECK!



ハイツふなき
ヴィラふなき
生活支援センターふなき
サムラ

〒757-0216

社会福祉法人扶老会 障害福祉サービス事業部
山口県宇部市大字船木833

(0836)67-0188 自立訓練・宿泊型自立訓練・就労継続支援B型
(0836)67-1883 グループホーム(介護サービス包括型)
(0836)67-2464 相談支援事業・日中一時支援
(0836)67-0171 就労移行支援事業・就労継続支援B型

ホームページ

<http://www.furoukai.jp/>

ブログ <http://www.furoukai.jp/cms/heightsfunaki/>